

自己点検評価報告

毎年テーマを決めて、職員で自己点検評価に取り組んでいます。令和5年度は『指導計画の作成と評価・反省』を点検項目として実施しました。今年度から指導計画の様式を改めるため、1年間の園内研修として学年ごと見直しを行いました。

自己点検評価は、4月と2月に2回実施しました。評価方法は、項目ごとにそれぞれの職員が付箋紙に「している」「していない」「改善点」を書いて話し合いました。3月に学園の理事会で理事の方からもご意見をいただきました。

【1回目の点検結果】

○指導計画を作成するにあたって取り組んでいること

- ・園の方針や教育課程、幼児の実態などをもとに考えて作成している。
- ・幼児の興味や関心、これまでの生活の様子、予想されるこれからの生活などを考慮して作成している。
- ・指導計画はマンネリ化しないよう、常に見直しを行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるように作成し、自由に変更できるような順応性のあるものになっている。

○課題として評価したこと

- ・幼児期までに育って欲しい10の姿を意識していない。
- ・教育要領を常に見て作成していない。
- ・保育者同士が互いに保育を見せあって、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげていない。

○課題を改善するために「保育者同士、気になる点・気づいた点などがあつたら、互いに声を掛け合っていく」「自ら選んだ遊びやにじぐみ保育の中で、保育を見て学び合うようにする」こととしました。

【2回目の点検結果】

1回目の自己点検評価の時、課題となった項目や改善点を取り上げて再度点検しました。「できている」評価は多かったのですが、改善する必要がある項目は下記の通りです。

改善項目1. 指導計画は教育要領、教育課程、幼児の実態などをもとに考えて作成している。

1回目の点検の時「教育要領を参照した振り返りになっていないこと」が改善点としてあげられました。教育要領と照らし合わせながら指導計画の見直しを行ってこなかったため、今後は「指導計画の見直しの時、教育要領を横に置いて見直ししていく」ことにしました。

改善項目2. 指導計画は総合的な活動ができるよう考慮して作成している。

1回目の点検の時、改善点として10の姿でみると偏っているところもまだあるので、見直しながら作成していく、10の姿を意識して見直しをしていくようにする対策があげられました。2回目の評価でも、10の姿をもっと意識する必要がある、バランスよく作成することが難しいなどの意見がありました。対策として第3者の目や他の学年で見直ししていくことも必要ではないかと改善策を検討しました。

改善項目3. ・自分の保育を他の保育者たちにも見てもらい、それをもとに検討している。互いに保育を見せ合って、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている。

課題として、保育中に他の学年まで行き保育を見せ合うのは難しい、時間を取ることができないなどがありました。保育者自身が自分のことには気付けないこともあります。外部者から見て「不適切保育」と疑われる保育はなくしていかなければいけないし、そのためには不適切保育や虐待と思える対応があった時、保育者同士が自由に言える環境をつくっていく必要があります。そのための環境、組織作りを検討していくことになりました。

◆自己点検自己評価について理事の方からの意見

理事1：保育者同士、気になる点や気づいたことを話し合う対策の流れは良いと思います。

学年主任同士がミドルリーダーとしての役割を果たしていく必要があると思います。

職員同士のコミュニケーションが大事です。

理事2：例えば「給食を完食させようとする」ことについて言えば、いろんな食材に触れて欲しいという思いがあったとしても、小さい時には食べられなくとも大人になると食べられるようになります。給食を無理に食べさせなくとも良いと思います。園の方針があると良いと思います。

理事3：給食をなんでも食べて成長して欲しいという保育者の願いはあると思うが、無理に食べさせられたことが、成長した時にトラウマになってしまうこともあります。一人ひとりの子どもの発達や食の様子をみながら取り組んでいくのが大事だと思います。

保育者によって指導が違うことは良くないため、何のためにするのか、何のためにさせたいか、何を育てたいのか保育者同士が共通理解して保育していくことが大事です。

一人ひとりの子どもは違います。一人ひとりの子どもに寄り添った保育が必要です。

保護者と連絡を取り合うことは大切なことであり、保護者と先生が話せる関係をつくることも必要です。信頼関係が大事です。

保育者は教育的に、厳しく子どもと関わることもあるが、厳しくされた子は、人間関係につまづくこともあります。厳しくするから子どもは立派に成長するとは限りません。

理事4：子どもに厳しく接した時、みんなで一緒に活動する時、集中して欲しい時、立派な姿を保護者に見てもらいたい思いで、保育者の指導にも力が入り厳しくなる時もあると思います。その活動やその時が終わったら保育者も子どもと一緒に遊び、一緒に笑い、楽しい雰囲気にするなど、厳しく接した後はフォローも大切だと思います。